



市民活動センター ★たちかわ通信



平成30年度

立川市社会福祉協議会
市民活動助成申請の受付が始まります！



立川市社会福祉協議会市民活動助成について



市民活動センターたちかわでは、市民の皆さまからお預かりした立川市社会福祉協議会会費や寄附金を財源として、ボランティア・市民活動グループへの助成事業を行っています。この助成事業は、市民参画による運営委員会で審査をしており、団体の公益的な活動が継続的に市民や地域に還元されることを期待して行われます。

団体の運営基盤強化を目的としています



市民活動助成は、その団体が継続して活動していくことを目的としています。
ファーストステップ助成や事業継続支援を通過点とし、いずれは他の助成金申請へのチャレンジや、団体独自で運営できる体力を付けていただきたいと思います。

■申請の流れ

- ①「立川市社会福祉協議会市民活動助成の案内」
「申請書」を入手する。
※窓口またはホームページよりダウンロード可

URL:<http://www.tachikawa-shakyo.jp/skct/>

- ◆ファーストステップ助成
→団体の結成から3年以内
団体の結成および1年間の運営にかかる経費等
- ◆事業継続支援
→団体の結成から3年以降
市民交流事業や普及啓発活動等にかかる経費等

- ②申請書を作成し、添付書類を用意します。
- ③申請書と添付書類をセンターへご持参ください。
- ④センター運営委員による助成金審査会の実施
(2月下旬～3月上旬にかけて実施)
- ⑤助成決定団体へ「助成金交付等決定通知書」をお渡しします。



■助成額

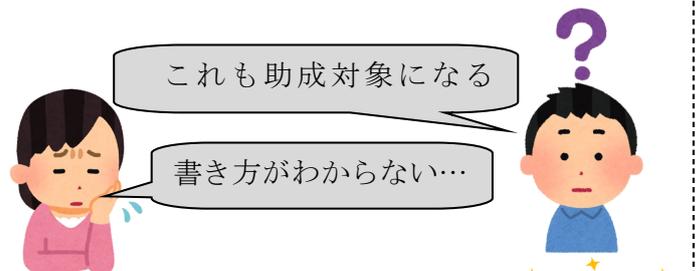
ファーストステップ助成・事業継続支援ともに、1団体につき最大5万円
事業継続支援は助成回数により自己負担あり

■助成対象期間

平成30年4月1日～平成31年3月31日

■申請書の受付期間

平成30年2月1日(木)～2月16日(金)
平日9:00～18:00・土曜日9:00～16:00



申請に関しての不安やご不明な点がございましたら、担当まで電話にてお問い合わせください。上記受付期間にて日程調整をさせていただきます。



災 害 特 集

災害ボランティアセンターをご存知ですか？

災害ボランティアセンターは、発災時に「ボランティアの力を借りたい」という被災者と、「被災者の力になりたい」というボランティアをつなぐ役割をします。立川では立川市の要請を受けて、社会福祉協議会が災害ボランティアセンターを開設する予定です。

立川市社会福祉協議会では災害発生に備えて、災害ボランティアセンター立ち上げ訓練や、立川市総合防災訓練や立川南口防災フェア等の場での周知活動を行っています。

なぜ
災害ボランティアセンター
が必要なの？



発災後は、被災地に全国からたくさんのボランティアが駆けつけます。ボランティアのみなさんに安全に活動をしていただくためには、災害ボランティアセンターが窓口となり、全体の動きを把握し、調整する必要があります。たくさんの善意を最大限に活かすためにも、災害ボランティアセンターは設置されます。

災害ボランティアセンターの流れ

ボランティア受付班

受付時にボランティア保険加入等の確認をします。



ニーズ受付班

電話や来所、訪問などにより、被災者からの困りごとを聞き出します。



割れたガラスの片付けを手伝ってほしいな

人手は何人くらい必要ですか？

マッチング班

誰がどのニーズに対応するのか、ボランティアと活動先のマッチングを行います。グループで活動を行う場合は、リーダーを決めます。



このニーズの役に立てるかな

活動資材貸し出し

送り出し 活動オリエンテーション

こんなことに気を付けてください！



ボランティア活動実施

活動終了・活動報告

翌日以降も活動が必要かどうかを確認します。

避難行動要支援者について

避難行動要支援者とは？

「避難行動要支援者」とは、高齢者、障害者、乳幼児など災害時に配慮を必要とする方のうち、自ら避難することが困難な方々のことです。その方によって必要な支援が異なっているため、きめ細やかな配慮が必要です。



要支援者を避難誘導する際のポイント



認知症の方 知的障害・精神障害のある方への対応

まず動揺している気持ちを落ち着かせ、「大丈夫ですよ」「安心してください」など声を掛けてください。ゆっくりと説明をし、言葉での理解が難しい場合は、「〇〇へ行きましょう」と伝え、優しく手を引くなどして、安全な場所へ誘導してください。



耳の不自由な方への対応

話しかける前に、肩を軽くたたくななどの合図をします。口の動きから言語を読み取る方もいらっしゃいますので、相手から口が見える位置に立って、口を大きく動かして話しかけましょう。場合によっては手話や筆談によって状況説明し、避難誘導をします。緊急避難が必要な場合は、手を引くなどして一緒に逃げましょう。



目の不自由な方への対応

周りの状況を常に具体的な言葉（10歩ほど歩くと右斜め前に木が倒れています、川の水量がとても増えています、など）で伝えましょう。誘導をするときは、杖を持たない方の手で肘の上を掴んでもらい、ゆっくり歩きます。階段や段差の前ではいったん止まり、上るのか下りるのかを伝えてから進みます。



その他にも災害時には体の不自由な高齢者、乳幼児、日本語の理解が十分でない外国人、旅行者、妊産婦や傷病者など、支援が必要な方はたくさんいらっしゃいます。

「ご近所づきあい」という備え



立川市は立川市避難行動要支援者支援制度に基づき、避難行動要支援者の登録制度を設けています。しかし支援が必要な方は多岐に渡っており、登録制度だけで立川市内の全ての対象者を把握することは困難です。万が一のときには、日頃からの地域のつながりがとても重要になってきます。



災害時を意識した

「ご近所づきあい」を始めませんか？





今年「戌年」！福祉の犬って…？

「福祉」と「動物」。

一見関わりが少ないように感じますが、実は福祉の世界では、動物が活躍する場面が多くあります。

2018年の干支は「戌」です。今回は戌年にちなんで、「補助犬」の紹介をします。

※補助犬とは・・・ ①盲導犬 ②聴導犬 ③介助犬の総称です

①盲導犬

盲導犬は、目の不自由な方が安全・快適に歩くお手伝いをします。目の不自由な方は、目的地までの道順を頭に描きながら、ハーネス(犬が体に付けている胴輪)から伝わってくる盲導犬の動きや周りの音、足元の変化などを基に周囲の状況を判断し、盲導犬に指示を出して歩きます。

指示を出すときは、「ライト」(右へ)、「ストレート」(まっすぐ)など英語を使ってね。日本だといろいろな表現があって難しいんだ。



僕たちは家の中の音だけでなく、外の音も覚えてるんだ。ほら、あっちから車が来るよ。気をつけて！

②聴導犬

聴導犬は、暮らしに密着した音(赤ちゃんの泣き声、電話の呼出音、ドアのチャイム、目覚まし時計の音、車の音など)を覚え、そのことをユーザーに伝えます。

③介助犬

介助犬は体が不自由な方の生活をサポートします。落とした物を拾う、ドアの開け閉めを行うなど日常生活の支援をしたり、緊急事態が起きたときには、助けを呼びに行くなどの対応をします。

わたしたちは「パートナードッグ」とも呼ばれているよ。ユーザーの生活サポートだけでなく、気持ちのサポートも大切な仕事なの。



介助犬を見かけたら… ??

介助犬はユーザの体の一部として仕事をしています。もし介助犬とユーザーを見かけたら、以下の協力をお願いします。

- ①触らない ②声をかけない ③食べ物を与えない



僕たち補助犬は、一生懸命仕事をしています。もし集中力がなくなってユーザーにケガをさせてしまったら大変！でもみんなが優しく見守ってくれていると「がんばろう！」って思えるんだ。困ったときにはサインを出すので、そのときには声を掛けてもらえると嬉しいな。

情報コーナー

～イベント・講習・講座・ボランティア情報など～

ここに掲載されている情報の詳細に関しては、直接主催団体にお問い合わせください。

● ● ● イベント・講習・講座 ● ● ●

■みんなの展示場中村洋久絵画館 からのお知らせ

①NPO 法人なかよし会すきっぷアート展2018

18歳以上と18歳未満が隔年に分けて開催。今回は18歳以上の方が2年間、日々絵画制作した作品展。平成30年1月6日(土)～28日(日)の金、土、日、祝日
10:00～16:00 ※最終日は14:30まで

②新しい年、

気持ちを新たに生涯学習をスタートしませんか!

- ・水彩スケッチ 第2・第3土曜日
- ・中級水彩スケッチ 第2日曜日
- ・絵と文字画 第2金曜日
- ・ちぎり絵 第2火曜日

入会金はすべて無料、月謝も参加しやすい金額です。

※詳細はホームページ、または下記問合せ先へ
申込み・問合せ：①②ともにみんなの展示場
中村洋久絵画館(立川市柴崎町2-21-17)

TEL&FAX:042-524-4702

E-mail:h-naka77@zat.att.ne.jp(中村さん)

■平成29年度 第3回勉強会 「高齢者の住まいと選び方」 ～これで安心!マイライフ～

三多摩市民後見を考える会は、住み慣れた地域で、安心して安全に自分らしく生活することができる社会を目指しています。今年度の第3回会員の月例勉強会は、市民の皆さんと一緒に、安心・納得の高齢者の住宅の選び方を学びます。会員一同皆さまのご参加をお待ちしています。

日時:平成30年2月4日(日) 13:30～15:00

場所:オリンピック曙ビル 7階703号室

(立川市曙町1-25-12)

講師:山城実央氏

(立川市南部西ふじみ地域包括支援センター)

参加費:無料

定員:20名(申し込み順) ※2月3日(土)締切り

申込み:NPO法人三多摩市民後見を考える会

(川杉さん)

TEL&FAX :042-531-0624

携帯:090-7832-6506

■「がんカフェたま」

がんの悩みや不安など同じ思いの人々の語らいの場です。医療従事者も同席して助言します。がん患者さんやご家族など、どなたでもご参加いただけます。

日時:平成30年2月～3月 毎月第1土曜日 13:30～15:30

場所:立川商工会議所 12階第1会議室(立川市曙町2-38-5)

参加費:200円

申込み:ボランティアさくら(岡田さん) E-mail:ccafetama@tpc-net.com

TEL:080-1163-5281 ※電話での受付時間 10:00～16:00



● ● ● ひと・モノ・募集 ● ● ●

■人生を語りあう会 メンバー募集

一緒に、潤いのある言葉のキャッチボールを楽しみませんか?

良き会話は心を育てる栄養です!

☞話し方や聴き方を勉強したい人、第二の人生を謳歌したい人、地域デビューしたい人、生きがいと楽しい暮らしを再発見したい人、お待ちしております。

日時:毎月第3金曜日 14:00～16:00

場所:高松学習館(立川市高松町3-22-5)

※日時、場所とも変更する場合あり

参加費:年会費500円 ※有料会場使用の場合は別途

申込み:人生を語りあう会(田中さん)

TEL&FAX:042-560-9348

■ボランティア募集

至誠キートスホーム内のデイホームでの活動です。

①絵手紙、絵画、手芸などの趣味の活動

日時:火曜日 10:00～11:30

※個人でもグループでも可

②書道の先生(資格等不要)、

書道教室参加者のサポート など

日時:木曜日 10:00～11:30

※①、②とも月2回から可

申込み:至誠キートスホーム(川井さん)

TEL:042-538-2323

FAX:042-538-2324

E-mail:kiitos-volunteer@shisei.or.jp



ねっとわーくNO.4

「ねっとわーく」は、立川市内で活動する市民活動団体を紹介するコーナーです。今回の団体は「特定非営利活動法人テン」です。

特定非営利活動法人テン（以下、テン）は、精神に障害を持ち、さまざまな悩みを抱えながらも社会復帰を目指している方を支援する団体です。

今回はサービス管理責任者をされている富岡たづ子さんにお話をうかがいました。



■着実な進歩

テンの原点は6年前に遡ります。精神障害をお持ちの方が自宅に引きこもってしまうことを防ぐために、小さな作業所を始めました。富岡さんが作業所で利用者さんと関わる中で、今後利用者さんが自立した生活を目指していくためにはどうしたら良いかを考えるようになりました。

まずはNPO法人格を取得することで、社会的な信用を明確にし、活動の幅を広げました。平成29年12月には就労継続支援B型事業所として、東京都から指定を受けました。これにより自立した生活を送るために必要な「就労」に向けて、利用者さんを支援することが可能となりました。

「正直なところ、ここに来るまでにたくさんの苦労がありました。でも利用者さんやご家族のことを思うと、続けることに迷いはなかったです」と富岡さん。困っているときに手を差し伸べてくださった方々とのつながりは、かけがえのない宝物になったそうです。

「ここまで続けてきて、本当に良かったです。でもここがゴールではなく、ここからがスタートです」と、いきいきとした表情で語っていらっしゃいました。

■利用者さんとの関係

テンでは利用者さんが安心して自分のことを話せるように、信頼関係を築くことを大切にされています。「家族のようにお付き合いしてきた利用者さんが、一般の就労へつながったときは、本当に嬉しいものです。利用者さんに会えなくなるのは、少し寂しいですけどね」と富岡さんは語ります。

安心して自立を目指していけるよう、利用者さんひとりひとりを温かく見守る富岡さんの思いが言葉と表情にあふれていました。

■個性的な商品

利用者さんは、就労に向けた訓練として、さまざまな商品を作っています。特にラムネ玉の首飾りはテンならではの商品です。ラムネ玉を小袋に詰めた物をラップで包んで首飾りにしています。SNSや口コミの宣伝効果により、保育園などからの需要が高まっています。



他にも編み物などの手作り作品を販売しています。自分の作品が売れると、利用者さんは喜び！とても大きな励みになるそうです。

■今後に向けて

就労継続支援B型事業所として指定を受けたことで、新たな仕事の依頼をいただけるようになりました。今後は更なる工賃のアップを目指すそうです。

「障害をお持ちの方は、引きこもりになりがちです。そんなときに大切なのは地域とのつながりです」と語る富岡さん。今後は事業所だけの活動ではなく、バザーなど地域と関わる機会を増やしたいそうです。

たくさん希望を持って語る富岡さんの嬉しそうな表情がとても印象的でした。

【団体Date】

特定非営利活動法人テン

TEL : 042-527-9171 / FAX : 042-527-9171

E-mail : hssmrd1955mmmrp52@softbank.ne.jp

◆編集・発行◆

社会福祉法人 立川市社会福祉協議会

市民活動センターたちかわ

〒190-0013 立川市富士見町 2-36-47

☎ 042-529-8323 / Fax:042-529-8714

✉ shimin@tachikawa-shakyo.jp

URL : <http://www.tachikawa-shakyo.jp/skct/>

◆開所日・時間◆

月～金曜日 8:30～19:00 / 土曜日 8:30～17:00

※日曜日・祝日はお休みです。

かつたくんのつぶやきコーナー

今年の目標は元気に楽しく過ごすこと！

みなさんの目標は何ですか？

楽しい一年になるといいな★

